

# 佐保会兵庫県支部だより

## 第3号

昭和54年11月1日発行

佐保会兵庫県支部事務局

神戸市北区緑町5-3-21  
〒651-12 ☎(078)581-5727



(インフォメーション神戸所長) 林 利三郎 氏画

### 佐保苑を訪ねて

佐保苑が開苑されて一年になる。入苑されている老人から、直接お声を聞き、皆さんにお伝えしたいと、六月十八日佐保苑を訪れた。

宮崎苑長さんと事務長さん達の出迎えを受けて、早速苑の現況を伺い苑内を見せていただいた。現在、最年少60才(この方は60才の誕生日を待ちかねて入苑された由)最年長84才、男6名、女35名の方々が入苑されていた。82才の方の場合、息子さんが



たのしみのお食事が待たれます

勤務地アメリカへ行かなければならず、その間身寄りのない老人をどうしようかと心配の矢先、佐保苑の話を知り、早速入苑の手続をされ、こないだい所に入れていただけで安心して勤務地へ行けると、赴任されたとか。また、入苑中の老人の中には、ここから老人大学の講義や、公民館の講演を聞きに行ったり、俳句の会、書道、画の会へと、新しい時代の老人の生き方が示唆されるような生活をされている。また園芸の好きな方は苑の隣の空地に野菜を作り、

花を作り、全く自主的に仕事をみつけ、毎日が楽しくて……と。

また佐保苑大を出られた栄養士さんは、真心こめて老人向の献立づくりに動んで居られた。この日の昼食は、のり巻きずし、あさりの吸物、鶏のささ身の蒸煮、レタス入付、三度豆のみそ和え、西瓜のデザート。二度豆は隣の空地での収穫物とか、そのやさにお年寄りの気持が伝わっているようなほのほとしたものを感じた。また特に嬉しいことは、食器類に細い心遣いが見られたことである。とかく、集団給食という

と、経済性が第一義で器が簡略化され、家庭の味どころか無味乾燥、情ない気持になるが、皿、椀、小丼、銘々膳に至るまで、皿の通った心くばりが見られ、さすが佐保会先輩諸姉の経営でと心温まる思いがした。一月三万二千円余で、理想的とも思える老人の生活、今問われている生涯教育のあり方、老人福祉問題、養老院的偏見を捨て去るなど、いろいろ考えさせられた半日であった。

佐保会としては、建築費員の他力なりの借金が残っている。一億円寄付の予定のところ約十割が皆様からの寄付によつてまかなわれたが残る分を、これから各方面にも働きかけていきたい。そして更に覆たつきり老人のための施設拡張をはかりたいと、大きな事業についての夢をふくらませて居られた。

私達もこれで終りとせず、今後機会がある毎に僅かでも佐保苑に寄付することにより、佐保会の事業の一部に参画しているという喜びを感じ、一層、佐保会を誇りとしようではありませんか。

兵庫県支部長 津野 貞子

研究

結城紬考

見満 亀野

私は本年三月末に神戸女子大学を退き実に五六年の永きにわたる教師生活に終止符を打ちました。之も奈良女高師卒業という背景によるものと感謝一入でございます。さて私学勤務一三年間平素は多

忙な毎日でしたが夏休暇中は実に自由に旅行し、古い時代の被服材料、無形文化財の指定を受けている織物等に接して楽しい思い出をつくりました。和服愛好家のご参考までに全国六〇種余の紬織物の内結城紬について紹介しましょう。

紬のこと

○延長五年(九二七)に完成した「延喜式」の中に綿紬・絲紬という語がある。当時日本には木綿は無かったので(一五世紀以後のもの)綿は真綿のことで、真綿から手で引き出して作った手紬ぎ糸で織った白生地である。一枚の袋真綿から途切れず一本の糸に引き出すことのできる良質の真綿を使い

長繊維なので撚りをかけないで自然に撚状に引き出されて糸が作られる。之を紬ぎといひ今日尚手紬糸を経糸・緯糸に使用しているのが本場結城紬である。

○絲紬とは屑繭(出穀繭・汚れ繭・玉繭)を灰汁で煮ながら繭から直接糸を引き出して作る糸で乾くとセリシんで固って糸状となり之で織った白生地を絲紬という。

○三世紀末期から養蚕が始り絹は宮中に榮え上流社会にのみ着用品許された。繭は貢納品としてとり上げられ、僅かに自家用として廃物利用の絲紬が早く普及したと推測される。

○角真綿から手で引き出しながら糸車で撚をかけて手紡糸として緯糸にのみ使用しているのが上田紬・飯田紬である。この場合経糸は機械績の絹糸である。

○八丈島のおやり糸の手錘とりの如く真綿から引き出した糸に錘で撚りをかける手紡糸もある。

○四世紀頃の絹織物に絶と縹の二種があり、縹とは固織りのつまつた言葉で布地が密で厚手の無地の平織で当時としては上品として扱われた。絶とはふとぎぬとも呼ばれ糸に節がありやや太糸で織り味も荒かったとある。縹を以って紬の起源という説もある。

結城紬の史的考察

○「常陸国風土記」によれば美麻貴の天皇(第一〇代崇神天皇)の時代長幡部の遠祖多豆命という人が美濃の国から久慈・太田の郷に來て機殿を作り縹を織ったとある。その長幡部の縹こそ結城紬の前身であるという。

○「古語拾遺」(風土記より二〇〇年後)によると、好麻のとれる所を総国といひ、よい穀木のとれる

所を結城の郡という」と。つまり当時結城はよい穀木の産地として知られていたということである。

○雄略天皇(四二七)が此地に養蚕を奨励された。氣候風土が養蚕に適したと古くから織物の技術があつたので縹が織られた。

○「絶から紬へ」長幡部の縹↓常陸絶↓結城紬と養蚕技術の発展・繭の改良により絶より良質の布が織られるようになり紬と呼称し時代の進歩に伴って紬織の賞讃されるに至る。

○治承四年(一一八〇)小山七郎朝光が結城の地に來り結城と名のりこの地を治めてからこの地の経済を支える織物を常陸紬として幕府に献上して認められるに至った。

この時から繭から真綿を作り手紬糸を作つて織物とした。当時の物は糸がやや太く丈夫そうな風合を持ち、絹織物の光沢も失わず深味のある落ち着いた感じが当時の武士の嗜好に合ひ広く愛用された。

○天正一八年(一五九〇)結城家では徳川家康の二子秀康を養子に迎えたが慶長六年(一六〇一)に秀康が越前福井にお国替えとなり町ぐるみ大移動となり四二一年間一八代続いた結城家は影もなく消えて行った。

○細工の献上していた功績により結城家の名にちなみ結城紬の呼称を賜った。結城紬は発生したが衰

退の一途をたどることとなる。

○柳条紬の出現

慶長七年(一六〇二)伊奈備前守忠次が代官となり結城を天領として支配した。彼は城下の衰退を愁い信州上田より柳条紬の織工を京都より染工を招き紬織の振興に力を注いだ。

従來白生地であつた紬が色染め・型付け・模様染を採り入れ、柳条紬(縹紬)を織るようになった。享保一七年(一七三二)に書かれた「和漢三才図会」に「紬は真綿の糸口を抽き引いて糸となす故細緻ならず然れども久しく敗れ疵

ならず民間の勢力として可なり」と。当時上田紬を追い越して最優秀の地位につき糸質強靱・染色堅牢・布質精緻と歌われた。縹柄は万筋・千筋・大名・二崩・三崩が多かつた。三〇〇年間も縹の全盛期が続いたのである。

○飛白の導入  
元文一年(一七三六)九州久留米では飛白の技法が創案された。結城に飛白の技術導入は慶応元年(一八六五)のことで大塚いさ女須藤うた女の二人の老巧者により完成した。

○細工の出現と完成  
明治二〇年(一八八七)縹織が精巧となり十字縹や布巾に三〇個の亀甲縹が完成した。

明治三〇年(一八九七)には巾五〇個の亀甲細工縹が完成した。明治四〇年(一九〇七)東京博

覧会に一反八〇〇円の結城紬が陳列されて直に売れた。平織一反の価格にしては並外れて高価で人々の注目を引いた。それは紺地で巾二〇〇の十字縹で縹は極く細くしかも十字が明確でなくてはならぬ。並大低の苦心ではなく一反の経糸に三分の緯糸を用意し、織りながら経緯の目を合せる為に二分は屑糸となる。之を織るに老練な女子で一日一〇程程度で一反を織り上げるに三・四カ月を要したという。最高の精巧さを求め努力又努力の成果である。

大正七・八年(一九一八・一九一九)の好況時代に正(二反つづき)二〇〇円の記録品が出た。亀甲縹も同様巾に二二〇の亀甲が最高であつた。

○さて現在は如何に(昭和時代を削除)  
昭和五三年(一九七八)調査

紺地 巾一六〇蚊縹細工柄時価 六六〇万円  
白地 十字縹細工柄 九〇万円

白地 巾一〇〇亀甲縹高級品 九八万円  
茶地 巾二四四大縹亀甲柄 三五万円

紺とねずみ 縹柄 二五万円  
右の製品は糸が極めて細く、小さな縹が集つて大柄を構成し色といひ柄と言ひ極めて精巧で、きもの通の人にふさわしいと思う。  
(大11・家)

# 勲四等瑞宝章 栄誉の一姉

三〇〇〇〇〇〇〇

印部(おせい)

教育の道歩き出して五十年、戦後管理職や行政関係に入って三十年、大きい節目の年である。よくもここまでと思う反面、あつという月日でもあつたと思つたり、やはり感無量というのが本当である。

## 〇時・所・位

これは二十代、奈良の女高師には、有名なお作法の大先生がいられ、堂々としたご体格に加え、学識も見識も高く、まさに女子最高学府のシンボルのようなお方がいられた。錦織先生というお方で、先輩達にきくと、人間として、教育者としての、魂を入れて下さった方と申され、畏敬していられた。その先生の教の中に、この三つの事についてのご指導があつたが、私が生涯を生きて、一ばん心にもあつて、わきまえつつしみ、自己を処してきたのが、この三つの事であつたように思う。

## 〇自主・創造・協同

これは四十代、学校経営にあつたのてのスローガンであつたのか、幾度も講堂の中央にかかげられた額面のこの文字が、いきなり目に入つて来たものである。戦後の民主教育は、女性の自主性を育て、自ら考え、自ら行動する自立への道も開き開かれてきたが、創造性の豊かさ、協力連帯の輪は、まだまだ拡げられていない。今後の課題であらう。

## 〇むかむか・くよくよ・いらいら

これは六十代に入つて、老人大学の講師を命ぜられ、さていかなることをいかにしてと悩み思考をこらしていた時、当時県の医師会長であられ教育委員長でいられた鎌谷先生が老人大学へ行くならこの三つのことをよく考えさせ、心の健康を保たせるようお話しなさいと、お教えをいただいたのである。

## 近頃思ひこ

この度の叙勲にあたり佐保会兵庫支部より、結構な御抹茶茶碗を頂き厚く御礼申し上げます。いつ迄も大切にさせて頂きます。長女、次女も佐保会員でございます。私は体が弱くて止むを得ず保育科に入りましたが、子供達は是非四年制の文科が家政科と願っておりましたのに、夫の戦死でこれまた止むを得ず保育科を出たのでございます。然し人の運命は、自分にもよくわからないもので、昭和十八年四月から先づ私が幼稚園を始めまして、当時三十五名の園児が現在では七百名を越す程になりました。長女も塩屋幼稚園と明舞幼稚園の二つと幼児研究所を経営し、次女まで当霞ヶ丘幼稚園の次期園長として私の跡を継ぐようになろうとは、夢にも思わなかつたことなのです。

土井 芳子

七十年という年月をたぐりよせてみたり、回想したりするゆつくりした時間はまだつくり出せないが、身辺に積み重ねられた資料や、読まれないで書棚に我慢してくれている多量の書物が気がかりである。整理をしたり作者と無言の間答もしてみたいが、その時間もつくり出す、つけれないままの日々が続くのである。ただ早く目覚めたさわやかな朝など、遠い日の思い出がなつかしくよみがえる事がある。最近過去のことや経歴などをきかれる機会が多かつたので、ふと各世代毎に学んだり、発見したり、つくり出したり、いただいたりした、処生訓のようなものを思い出してみたい。もちろん整理したり、選択したものでなく、さつと心に浮んだものである。

## 〇高慢・自慢・卑下慢

これは十代の女学生時代である。校長先生の友人とかで、東京から来られた先生であつた。古い金天井の講堂で、畳に正座して、お聞きした話である。たしか女の欠点であり、女の魅力の失われることについての話であつたと思う。高慢にはちきがつき、自慢にはたれがついて、こんな女にならないうようにとのことであつたが、印象に残っている。

## 〇清く・明るく・美しく

これは五十代である。むつかしい教育や福祉の推進を担当した時代であるが、徳川家康のつくられた五訓のうちの三つをいただいて、先生方や仲間の間で守りあい、実践をすすめる相互が、戒めあつたことばである。己れの弱気に負けないで、頑張りたいとむつかしい問題にとりくみ、思いきめたこと

## 〇むかむか・くよくよ・いらいら

これは六十代に入つて、老人大学の講師を命ぜられ、さていかなることをいかにしてと悩み思考をこらしていた時、当時県の医師会長であられ教育委員長でいられた鎌谷先生が老人大学へ行くならこの三つのことをよく考えさせ、心の健康を保たせるようお話しなさいと、お教えをいただいたのである。

## 近頃思ひこ

この度の叙勲にあたり佐保会兵庫支部より、結構な御抹茶茶碗を頂き厚く御礼申し上げます。いつ迄も大切にさせて頂きます。長女、次女も佐保会員でございます。私は体が弱くて止むを得ず保育科に入りましたが、子供達は是非四年制の文科が家政科と願っておりましたのに、夫の戦死でこれまた止むを得ず保育科を出たのでございます。然し人の運命は、自分にもよくわからないもので、昭和十八年四月から先づ私が幼稚園を始めまして、当時三十五名の園児が現在では七百名を越す程になりました。長女も塩屋幼稚園と明舞幼稚園の二つと幼児研究所を経営し、次女まで当霞ヶ丘幼稚園の次期園長として私の跡を継ぐようになろうとは、夢にも思わなかつたことなのです。

## 〇清く・明るく・美しく

これは十代の女学生時代である。校長先生の友人とかで、東京から来られた先生であつた。古い金天井の講堂で、畳に正座して、お聞きした話である。たしか女の欠点であり、女の魅力の失われることについての話であつたと思う。高慢にはちきがつき、自慢にはたれがついて、こんな女にならないうようにとのことであつたが、印象に残っている。

## 〇清く・明るく・美しく

これは五十代である。むつかしい教育や福祉の推進を担当した時代であるが、徳川家康のつくられた五訓のうちの三つをいただいて、先生方や仲間の間で守りあい、実践をすすめる相互が、戒めあつたことばである。己れの弱気に負けないで、頑張りたいとむつかしい問題にとりくみ、思いきめたこと

## 〇むかむか・くよくよ・いらいら

これは六十代に入つて、老人大学の講師を命ぜられ、さていかなることをいかにしてと悩み思考をこらしていた時、当時県の医師会長であられ教育委員長でいられた鎌谷先生が老人大学へ行くならこの三つのことをよく考えさせ、心の健康を保たせるようお話しなさいと、お教えをいただいたのである。

## 近頃思ひこ

この度の叙勲にあたり佐保会兵庫支部より、結構な御抹茶茶碗を頂き厚く御礼申し上げます。いつ迄も大切にさせて頂きます。長女、次女も佐保会員でございます。私は体が弱くて止むを得ず保育科に入りましたが、子供達は是非四年制の文科が家政科と願っておりましたのに、夫の戦死でこれまた止むを得ず保育科を出たのでございます。然し人の運命は、自分にもよくわからないもので、昭和十八年四月から先づ私が幼稚園を始めまして、当時三十五名の園児が現在では七百名を越す程になりました。長女も塩屋幼稚園と明舞幼稚園の二つと幼児研究所を経営し、次女まで当霞ヶ丘幼稚園の次期園長として私の跡を継ぐようになろうとは、夢にも思わなかつたことなのです。



## 専攻を超えて活躍の諸姉

### はかひびんの記念碑

川口志ほ子

からは、すばらしい子供が育っている事例をみるにつけても、是非女子の教育の在り方をもっと考えて頂きたいものです。

女子が立派になれば、男子も子供も立派に育って、この世はもっとすばらしいものになると信じておられますので、最近では誰彼の区別なく、そのことについて話し続けていますがなかなかかわかってもらえず、困ったことです。女子教育の在り方についてもっと深く考え、立派な基準をつくらねば駄目だと思います。才能のある人はどこまでもお伸び頂いたらよろしいし、妻となった人は夫を助け子供を育てることも大きな喜びです。他人の子供の教育は立派にするけれど、自分の子供の教育は立派にできないのでは困ります。

満七十才になって先も短いのですが、やりたい事は増えるばかりで、さてどういふことになるのでしょうか。とにかく生きています。一生懸命に信じる道を生き続けるつもりです。奈良女高師の校風を、たとえ一カ年でも身につけて頂いた喜びを今も持ちつづけています。どうか皆様も女子教育の為に、世の中全体の為に努力してくださいませ。私達女の手で、世界中の平和を守り、戦争のない楽しい世界を作るため全力を尽しましょう。

(昭2・保)

先日、十余年ぶりて県西部の佐保会が姫路で開かれました。それが生涯のうちの青春の四年間を奈良の地のあの学校にすごしたことを、今更に追懐されたことでしょうか。若い方達の出席が多かったことにも、その年代の私自身の姿を回想させて頂きました。会社を経営していた夫と、三人の娘達、この「よき家族」のための家事のさまざま。私の時間のおおよそはそれに捧げられていました。でもその中であって、少しずつ削りるように自分の自由な時間を読むこと、書くこと、調べることに当てはじめていました。なぜか、いつも「こんどはこんなことを書いてみないか」「こうしたこと調べてみないか」と言ってお下さる方が周囲に現われては力づけて頂きました。ほんとうに不思議なほどに人との邂逅に恵まれつづけてきたと思います。おかげで、いろんなものを自分の好きな方法で試みたり発表したりさせて頂きました。

気ままに書き続けているうちにいつのまにか児童文学に首をつっこんでしまっていました。昭和四十八年に偕成社から出して貰ったのが「二つのハーモニカ」でした。その映画化の企画があると知らされたのが五十年の夏、シナリオの第一稿を見せられたのが秋でした。自作がシナリオ作家によって映画撮影用に再構成されたものを読むのは、いわば異質なものに変貌した「わが子」を見る思いです。なるほど、と思ったのは、火事の場面（それは、主人公の少年が、少女の家のボヤに行き逢い、消火を手伝ったために時間におくられるという状況）が、シナリオでは水泳事故の場面にかきかえられていた点でありました。「なるほど、そのほうが撮りやすいのではありません」と私が電話で感想を伝えると「セットにせよ、やたらボウボウ燃やしては勿体ないし、危いですからね」と、制作者の声が発話口で笑っていました。

物語の時代は戦争末期、私にとっての青春の日々です。あの時期の思い出を素材としています。主人公が爆撃機に乗っていましたからその記憶は生々しく、久しく温めていたものを、ひといきに書き上げた作品でした。地方に住む、名もないものの作を、映画化されたのは、きつと思いの痛みを、行間に読みとって頂けた故であったろうと思います。

場所は海軍航空基地のあった宮城県南の町でしたから現地ロケが多く、さきほどの少女が溺れる場面も、伊達政宗が造らせたという見事な濠をそのまま使っています。きびしい戦時下のひととき故に、水流に戯れる子供群像が、悲しいほどすこやかに目に訴えてくるのです。

ところで運命とは意地悪なものです。足元の大地が崩れるにも似て、主人がガンを宣告され、入院、手術。私はベッドの足元に寝起きの日々がつづきました。ガンの進行ほど、現代の医学の、また人間の無力を思い知らされるものはありません。病状の進行を見守るばかりの病室に、映画撮影の進行が、また完成が、つづいて受賞が、遠い異次元の世界の声として報じられました。映画の中で、おそらく生々と子供達と合奏しているだろう飛行士。それは、いま、ここで病と闘っている主人の三十年前の姿なのに——と、私は胸を痛くしていたのでした。そして遂に主人は逝き、物語りも、映画も、私にとって、悲しみに裏打ちされたものとなりました。

よくお問い合わせをうけるのですが、この映画は新藤兼人さんの近代映協による自主制作ですから、一般の興行館でなく、各都市の文化センターなどで自主上映されました。フィルムは兵庫県映画センターが保管し、近頃も折々、学校の文化祭やPTA、婦人会や子供会の映画鑑賞会などにフィルムの貸し出しがされているようです。

——フィルムであると同時に、それはまた、私には悲しみの記念碑でもあるわけなのですが。

(昭19・文)

映画「二つのハーモニカ」は昭和52年度文部省特選  
昭和53年度タシケント映画祭  
で「平和委員会賞」受賞  
内外で高く評価されました。

### 刺繍との出会い

安達 英子

文科卒業の私が刺繍をはじめた発端は、家庭に入って幼児の世話から手が少しづつ離れかけた頃、何かしたいという願いを持つようになったことからです。

クリスチャンホームに育ちましたので、子供達に神を知らせたいと思い教会に出入りし、又母が婦人之友を長く講読し、羽仁もと子著作全集などがあつた事から友の会にも時々顔を出し、自宅で洋裁の稽古が始まるとその仲間に入れていただいたりしていました。戦後のきびしかった時代も次第に落

着いて来た頃、主人の転勤で倉敷から芦屋に移り、教会も倉敷教会から芦屋教会になりました。当時芦屋の浜の方に新しく出来た女教師のすばらしい教会があるとのことでしたが、それが芦屋教会で、教師は日本で女教師第一号といわれる長谷川初音先生でした。詩人の藤浦洸のお姉様で東京女高師の出身、九十才ですが随筆など時々書いていらっしゃいます。女教師の教会なんてと思いつきながら恐る恐るのぞいて見ましたが、一度ですっかり先生のお話のとりこになってしまい、日曜日の礼拝は勿論のこと、水曜日の午前の聖書研究会、午後の仕事会、木曜日の朝六時からの早天祈禱会に十年間通いつづけました。子育ての大変な時に先生に出会い心の糧を存分にいただき、叱られ、励まされた事は本当に幸せでした。仕事会ではバザーの為にフランス刺繍をエプロンや枕カバーにするのが中心でした。私も誘われるままに仲間に入りましたが、お稽古をしていらっしゃる方の仕事は素人が見ましても綺麗です。で、先生に「かなくてはどう思うようになりまし

た。教室の一つになっていました。早速紹介していただき、月二回土曜日の午後を待ちかねるようになり、通い始めました。その内に西宮の本部の方に毎週行くようになり、教師の資格もいただいて、教室を持ち近所の方に教える事にもなりました。母校の松蔭短大から戸塚の方へ専門学校卒で教職のある人を探しに来られた時に、卒業生ということもあって家政科の手芸に出ることになり、十四、五年経ってしまいました。

昭和三十一年四月大阪府立東淀川高校の保健体育科教諭に就任。しかし、バスもできない、ルールも知らないのに、バレーボール部顧問。今考えても足のふるえる思いがします。授業は先輩の先生を横目でチラチラ、バレー部は生徒にバスから教えてもらって……ふと気がついたら十年がすぎていました。その間、体育科の人達だけでなく、国語・数学・理科・家庭科の人達、また事務所や校務員の方々とも親しく話ができて、多くの人から、多くの事を学ぶことができました。担任ももち、学園紛争にも見舞われ、体育のこととバレーボールの事以外にはほとんど関心のない私にとって苦しい数カ月でした。授業も充分でない日々の中で、バレー部の練習だけが活動の場。練習、試合、合宿、息つくひまもない生活を卒業生に助けられながら、監督として男性にも負けない大声をはりあげ、生徒と共にがんばり四十六年頃から名を知られるほどのチームになり、大阪府ベスト4に顔を出せるまでになりました。

## 動から静へ

堤内百子

(昭18・文)

しかし、年間の休日が十日もない生活が続くと、若い人と交替した方がいいのではないかと考えました。卒業生が大学を終え、体育の教師として教壇に立っている姿に接した時、情熱、体力その他どれを比べても私には足りなくなっていました。幸い書道をはじめ、十数年、新しい生活にとびこめる余力を残している間に若い人達と交替してもらおう決心をしました。でもまだ四十五才前のこと、校長は、退職後の生計を案じ承諾を得るのに手間どりました。五十二年三月、在職二十一年やと退職、自宅で小さい机を並べて、幼稚園から中学生まで二十人あまりの子供達とワイワイ、ガヤガヤおけいこをはじめました。一般人の人達も数人。何とか飢え死だけはしないようです。高校生と小学生、動と静、すべて逆の生活です。高校教師も二十一年、書道教室も二十一年たてば何とか一人前になれるのではないかと思っております。

力してみようと思えます。同窓会諸姉のご指導をいただきたくて拙文を書かせていただきまして。ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。(昭31・文教)

## 路上検証

寺西とく

一瞬に命落せし路上検証の白墨のかたどりより抜けゆきし友み棺に新しき眼鏡かけて在す君はいまより何を見給ふ

家を移る雑多の荷の間にうづくまり飛驒の一位の鐘馗をつつむ

蘇鉄ばかり生ふる南の真日の鳥照る弓なりの葉をかくくぐる

鳥の男の背約けてをり砂浜の木の列舟にあつく丹を塗る

「女人短歌」所属、「どうだん」同人歌集「覚えある樹」49・2・1刊(昭7・家)

## 大連を

田中 菊枝

大連を語りて飽かず 秋灯下

引揚の荷からはげせし 雛のこと

(昭9・理)

# 「我們很好朋友」

茶谷 萬壽代

兵庫県婦人の翼、指導者友好訪中団一行、一〇五名の一員として、私は昭和五十三年九月二日から十六日までの十五日間に上海、北京、天津、石家荘の四市をまわりました。日中平和友好条約が締結された直後に、私も一行が婦人団体として初めて中国を訪れたのでした。

かねがね中国へぜひ一度訪れたいと夢見ておりましただけに、こんないいチャンスが与えられ、私はほんとうに幸運でした。どちらへ訪問しても、いたる所で熱烈な歓迎をうけました。この旅行中に見聞したことは数多いのですが、この稿には、個人的に特に印象に残ったことや、体験したことについてつかを記してみます。

大阪国際空港から中国民航機で飛び立つと、まず中国人のスタッフワーカーから、中国語で救命胴衣の説明があり、機内のスピーカーからも中国語による放送や、カン高い中国調の歌声が耳もとに流れ込んできました。意味はよくわからないのですが、中国語独特のあのイントネーションがとて懐しく、いいよ中国へ！と思うと胸がじーんとなりました。というのは、父の勤めの関係で私は大連で生れ、女学校時代までをそこで

過したからなのです。各地を回りながら見たアカシヤの並木路、柳並木の美しさ、ポプラ並木から透かして見えた赤い夕陽やロバ・ラバの姿に、そして中国語に接することに大連のことを思い出していました。

北京では人民大会堂で鄧穎超女「荒城の月」を歌う 右端筆者



史にお会いしました。中国の第四次全国婦人代表者大会の前日でお忙がしいとのことでしたが、この意義ある時に私たちが訪問したことを、とても喜んで下さいました。その時の御挨拶の中で「我們很好朋友（私達は仲よし）」と言われ、又「友好の花が満開し、ますます咲きはこることを確信します」と

言われた言葉が強く印象に残っており、人民大会堂の広々としたホール中央部にゆったりとした椅子が整然と並び、それぞれの傍の小机には中華という煙草とマッチ、メモ用紙と消ゴム付きの鉛筆、そして中国茶碗が揃えてありました。

鄧穎超女史のユーモアをまじえてのお話しぶりに笑いも加わり、和やかな雰囲気の見えました。天津に着いた時に出迎えて下さった楊文発さんは（中国国際旅行社天津分社員）通訳として私たちの班に随行して下さいました二十四才の娘さんです。お化粧なしの素顔が愛らしく、メモを片手にテキパキとした通訳ぶり。日本語の発音に心がかり、バスの中では私たちに一語一語たずねるようにして正しい発音練習を繰り返す熱心さでした。また水上公園では遊覧船上で「荒城の月」を教えてほしいといわれ、一緒に歌いました。ふと気がつくとき美しい水上公園の景色をゆっくり眺めることもなく通り過ぎておりましたが、こういう接触を通じて日中友好を深めることができるのだと思うと私はほんとうに嬉しいです。

上海の友誼商店で、私は中国製パイオリンを買いました。弓、ケースつきの一揃いに売っていることを珍らしく思いました。手ごろな値段で気に入ったものが見つかり満足しております。このバ

イオリンは帰国の前夜、北京での返礼レセプションの余興に使うことになりました。私はその時は中国語で挨拶してみようと思いつき、北京へ向う列車の中で通訳の王彦花さん（北京清華大学外国語研究組の先生で二十九才、三才の女の子がある。）に次のことばを覚えてもらって暗記することにしました。「我對拉提琴有興趣但是我不是專業稍懂二点儿」（私はバイオリンが好きですが、専門ではないので少し弾けるだけです。）折々に私の片こと中国語が通じたという実

## 子どもの遊び

伊藤 百合子

最近、子どもの遊び塾が出来たとか、子どものスポーツ教室が盛況であるとか聞く。なぜ、このような現象が起るようになったかを考えてみる必要がある。「大人の遊び」が仕事からの解放や慰みであるのに対し、「子どもの遊び」は生活のすべてであり、生活そのものであるといえよう。また、子どもの遊びは、本質的には自発するもので、それ自体が楽しいものであり、充実感、満足感を得るために我を忘れて熱中するものである。そして、仲間とともに遊ぶことによって社会的な人間としての基盤を体得し、成長するものであると思う。

かつて、子どもたちはテレビもなく、プラモデルもなく、広々とした場所で、夕方遅くまで大勢の仲間と走りまわって遊んだものである。玩具も素材なものや、手作りものを用いていたと記憶する。そして年上の子どもからいろいろな事を教えられる機会に恵まれていた。ところが最近では、遊びを忘れて子ども、遊びを知らない子ども、遊びに熱中しない子どもが増えてきているようである。目下、私は先輩のあとを受けて、母子スポーツ教室の指導をしているが、子どもは飛んだり、跳ねたりするが当り前だという考えを改めなければ

感が味わえたことは、私にとっても嬉しいことでした。通訳を通しての話し合いは時間がかかり、時には意図が正確に通じにくいこともあり。自分で聞きとり、話せることの必要性を、この旅行を通して強く感じました。今からでもテレビやラジオ講座を聴いて、一から学習すれば、中国語会話ができるようになるかしら——と夢見ている私、今後も日中友好親善につとめたいと思っております。

（昭19・家）

ならないような例が数多くあって驚いている。例えば、ピョンピョン飛ぶということが全く出来ない子、体が90度より前へ曲らない子（病院の検査では、全く異常がない）それほどひどくなくとも、膝に頭をつけるのが困難な子どもも多く、小学生に鬼ごっこをさせても、すぐ捕ってしまつて遊べない子など、特に異常はみとめられないのに、何となく潑刺としない子どもが何人もいる。

このように遊びの体験が少かったり、遊びに熱中しない結果、運動能力の発達が遅れ、特に跳躍力、柔軟性、敏捷性に欠ける子どもが増えたように思われる。勿論、全人的な成長発達に良い影響があるとは考えられない。

指定都市教育研究所連盟編「地域社会における子どもの生活」によると、今の子どもの遊びの第一位はテレビ視聴である。以下、ボール遊び、自転車のり、制作遊びなどとなっているが、広い遊び場を持たぬ子どもにとっては、希望する遊びでも十分満たされぬことが多い。

テレビ視聴は、いわゆる受け身の遊びであり、「遊びの本質」に欠けるものが多い。又ほかに商業化された玩具、ゲーム類は、玩具に遊ばれているようで、きまりきったパターンのくり返して夢や創造性を育てるべくもない。このように、子どもにとって体を動かさ

て、のびのびと遊ぶ機会がだんだん少なくなって来ている。その原因は

① 都市部では、広場が少くなり、車などによる危険な場所がふえたこと。

② 高学歴化社会の影響により、幼児期からの知的教育の偏重

③ 高度経済成長の影響により、商業化された玩具が次々と売り出される

④ 核家族化によって、過保護で自己中心的な子どもが増えている

⑤ 公害

など、その他さまざまな条件によって、子どもの遊びが損われていくようである。

「子どもは、遊ぶことによって成長する」と信じる者にとって、これは大変困った現象である。望ましいのは、子どもたちが嬉々として遊べる生活と環境を与えることである。しかし、直ちに遊び場や、スポーツ教室や勉強塾の必要のない社会は期待できない。

そこで、幼児教育に携わる機関が、子どもの遊びを指導するに留らず、自発的に遊べる子どもを育てることを狙いとして思う。また、各地域社会では、核家族化における若い母親が、自己中心的な育児のみ、陥らぬよう、仲間作りなどにより、つながりのある社会を作りたいたいものである。

(昭30・幼幼)

お知らせ

飛鳥 光恵

私は、兵庫県教育委員会に勤務いたしておりますので、左記のことを御世話させていただきます。

一 高等学校教員免許状を

お持ちになり、現在家庭におられ、週幾日か高等学校の時間講師を希望される方。

二 高等学校教員免許状(家庭)

をお持ちになり、一年間育児休業の裏付け教員として勤務することを希望される方。

三 中学校教員免許状をお

持ちになり、中学校の産休裏付け教員として三ヶ月勤務することを希望される方。

右一、三について御希望の方は、次へ御連絡下さい。

☎ (〇七九七) 三一九七四六 毎日夜間十時以降 (昭29・家住)

新社会人として

酒井美智子

この春、母校卒業後も研究室に残る予定であった私が、思いもかけず、佐保会兵庫支部会員で同学部学科の先輩でもある、或る先生のお世話により、姫路商業高等学校の家庭科教師として勤めることになりました。

奈良では、学部と大学院あわせて六年間、気ままな学生生活を過ごし、私自身それが自分にとって良くないと承知しながら今年もまだ、学校を離れずに好きな事をしていたいというのが本音でした。

ですから、四月の初め、この就職の話を決断する際はとても迷いました。大学では家政学部でも住居専攻で、教員免許はもっているものの名ばかり。衣食の分野が苦手な私には、家庭科教師という職業は重荷であり、第一に希望するものではありませんでした。ましてや、実家とは遠く離れた全然知らぬ土地でそんな気の進まぬ教師になりきってしまうのは非常に抵抗があつたわけです。こんな私が最終的にこちらに来る決心をしたのは、その時、もしこの機会をのがしたら、私自身が自分の殻から飛び出す時期を永遠に失ってしまうのではないかと気がふと起つたからです。要するに、今までの私は、自分では主体性をもって

たつもりがただ周囲の状況に押し流されて生きてきただけでほんの少しの自尊心や自負心のために、失敗し、苦勞し、廻り道すること避けて通ってきただけではないかと気づいたのです。そして、この機会にとにかく自分から一歩踏み出そうと思つたわけです。

しかし、いざこちらにひとり来て社会人として出発すると、知人も少く右も左もわからず、教師という責任ある職業が勤まるのかしらと不安が湧いてきてどうしようもありませんでした。そんな五月の初め、ちょうど佐保会兵庫支部の総会があり、出席したのですが、そこでは、今までじかに接したことがなかった先輩の方々のお話をうかがい、それぞれの生き様をもつてらっしゃることに驚くと同時に、このような先輩と母校を同じくし、その仲間入り出来ることを光栄に思い大変勇気づけられました。また、それまで母校に対してさしたる責任も感じていなかった自分を恥づかしく思い、今更ながら、自分ひとりのためではなく、先輩や母校の名においても頑張らなければと思いました。

とにかく、私が現在こうして就職できたのも先輩諸姉のおかげであり、母校の伝統があつてこそであることを肝に銘じて、謙虚な気持ちで精一杯頑張りたいと思つております。

(昭54・家)



# もよりの会だより

## 姫路の集い

土井千鶴子

姫路を中心とした周辺の会員が集まる会を以前は度々もつていましたが、気がついてみると、この十数年以上も途絶えてしまっていました。そこで、この春、神戸女子大をおやめになって、お暇のできた見満先生の呼びかけで、溝川、香川、土井の四人が一応世話人となって、五月十九日(土)に集まりをもちました。案内状一〇〇部は姫路市内とその周辺の方に、数名の連名で出しました。会場は姫路駅南口に近い「まねき会館」でした。当日は五月晴れのよい天候に恵まれ、文科系八名、理科系三名、家政系十六名計二十七名が集まりました。

全員で記念写真を撮ってから、見満先生のご挨拶がありました。先生は相変らず非常にお元気で、四月から老人大学へも行っておられます。引き続き食事をしながら、なごやかな自己紹介が始まりました。香川先生は「家庭科の男女共修をすすめる会」について紹介され、溝川先生は「糖尿病をよもぎ療法」で治されたというお話、希望者は伝授するとおっしゃって、お元気そうでした。川口先生は短歌、童話作家として、書くことの楽しさと大切さを、その他、先輩のお力で職場を得た人、結婚のお世話をしてもらった人、大学時代同じクラブだった人など、一堂に会して始めて確かめ合う同窓の絆を感じていました。あちらこちらで、お話がはずみ、予定時間はあつという間に過ぎてしまいました。来年も、できれば同じ頃に、このような集まりをもつことをお約束して散会しました。今年お越しになれなかった方は、次回ぜひ御出席下さいませ。

付記 姫路の集いの会費の残額 一万九百七十円は今回の連絡費に当てさせていただきます。本部、支部会費千五百円は見満先生が支部総会にお届け下さいました。(昭36・家)

## 尼崎もよりの会

佐藤すなほ

当地区は兵庫県東端にあつて平素神戸にご縁の薄い方が多く、支部総会にはチラホラ。是非近い所で近い者同志でとのお声が高まり、私は丁度中程の年配に当るので、おつなぎ役として武庫之荘地区の

方々に手伝っていただき、九年ぶりに皆様(五十二名)に往復ハガキでご案内を出し、早春二月二十五日(日)、阪急武庫之荘駅南二分、尼崎市立勤労婦人センターの一室で十一時より昼食を共にしての集い。入学試験や教え子の結婚式、御看病等余儀ないご欠席者があつたものの、十八名が、定刻までに揃われた。大卒の芳賀様より昨春卒、デザイン研究所勤務の西田嬢まで中国の所謂、老壮青とりませ、又尼崎市のおへそに当る園田女子大勤務の西沢・玉巻・天川諸先生は奈良・堺・西宮より御出席下さった。幕の内の昼食後、お一人づつのお話を伺う。戦前戦中戦後の変化多い社会に生きられた貴重な生のお話(家庭・仕事・研究等)と現況を聞かせていただく。若い方々は現役の主婦として育児家族関係に尽されながら、週何日か自己の生き甲斐の仕事をされる事や、職業と結婚の間をゆれ動く心境、ここ一年のフレッシュな職場体験等、卒直なお話に、初めての出会いと思えない親近感を覚えた。同窓とは何と不思議な心安さと、通い合うものを感じるのだろう。

水臭いこと言わないで下さいあい。と嬉しかった。来年からは市内を三つ位のグループにし、年々世話役を廻すことにした。或る若い方が「今日の会費が安かったので出席出来ました」と笑顔。(佐保会費と共に三千元、お菓子果物等御寄付を感謝)来年は園田塚口の方々にお世話になります。どうぞよろしく。(昭19・家)

## 北区もよりの会

高田ミチ子

今回記事は略しますが、年一回集ることに決めています。(昭18・理)

## 支部事務局だより

- 行事(53年10月、54年9月)
- 本部会報・支部名簿・支部だより第二号発送(53年11月24日)
- 支部だより編集委員の御苦労様会(印部姉の御慰労を兼ねて)(54年1月7日)
- 於竹葉亭 出席23名
- 支部総会(新入会員12名中3名出席歓迎)印部・土井姉受賞のお祝いを兼ねて記念品贈呈)54年5月27日
- 於天神閣 出席67名
- 本年度は懸案の支部会則の案を

再三役員会を開いて検討した結果、総会で案が承認されました。お慶び

- 印部すゑ子姉(昭3・文)
- 土井芳子姉(昭2・保)
- 敷四等瑞宝章を受賞
- 川口志ほ子姉(昭19・文)
- 昭和54年4月7日
- 姫路市民文化協会より第一回市民文化賞受賞
- 計報
- 熊田愛子姉(大15・保)
- 53年4月5日

## 編集後記

田中菊枝姉(昭9・理)の御尽力で今回も林利三郎氏の画を頂くことが出来ました。有難うございます。

支部だより第三号は、教職関係のみならず、芸術・文化方面等、会員の「バラエティに富んだ活動」をテーマにと一応考えました所、多数の御寄稿をうけ、これも有難うございました。支部だよりは、出来るだけ大勢の会員が身近にかかわるものでありたいとの趣旨で、編集メンバーも前回とは一新致しました。不馴れ、不行届、その他お気付の点、次回への御意見などどうぞ事務局までお寄せ下さいませ。編集委員

- 上田ユクエ 竹崎美佐保 栗栖幸子 横山しづ子 松本佳代子